福井県衛生環境研究センター研究員活動報告　概要

発表演題名	焼き肉店が原因施設とされた腸管出血性大腸菌 O157:H7 食中毒事例-福井県
発表雑誌名	病原微生物検出情報　Vol.29　No.6 事務局　国立感染症研究所　感染症情報センター
発表者名	山崎　史子（保健衛生部）
掲載時期	平成２０年６月
発表内容	近年、県内の食中毒事例はノロウイルスやカンピロバクターを原因とする事例が多い。今回、平成 15 年 7 月以来、久しぶりに腸管出血性大腸菌 O157 食中毒事例を経験したので、概要を報告した。 2008 年 4 月 4 日、5 日に腸管出血性大腸菌 O157 感染症として届け出があった患者 2 名および食中毒報道発表後に届け出のあった患者 1 名は同一焼き肉店で食事をしていた。また、検便の結果、患者と共に食事をした 2 名からも O157 を検出し、計 5 名から検出された。O157 株のパルスフィールド・ゲル電気泳動（PFGE）パターンは類似度が 93%と高く、近縁株であることが推測された。他の事例では PFGE パターンが同一であることが多いが、時には複数のパターンが確認される。今回、同一人物から分離された株でも異なるパターンを示す株が確認されたことから、複数の菌株を収集し、解析する必要があることを再認識した事例となった。